

今学期は先学期と違って、約 20 人のさまざまな国の学習者に対して自分ひとりで授業をしましたが、先学期と同様にさまざまなことを感じ、学ぶことができました。授業をする前の気持ちとしては、先学期は、留学生に授業をすることに対して「うまくできるだろうか」という不安や緊張が強く、授業をすることに対して「楽しみ」という気持ちはあまりありませんでした。今学期ももちろん不安や緊張はありましたが、「楽しみ」という気持ちが先学期に比べて強かった気がします。授業を終えてからの気持ちとしては、先学期は「もっとハキハキ、堂々としたかったな」というような少し悔しい気持ちが強かったですが、今学期は「もう少しできたかな」と思うこともありました、「楽しかった」という気持ちがとても強く、実習が終わってしまうのが少し寂しく感じたりもしました。

今学期の実習では、実習前に実際に実習先に行きプロの先生の授業風景を見ることができました。私自身、日本語学校に行くのは初めてで学校や授業中の雰囲気を感じ、プロの先生の授業の仕方を見ることができたことはとてもいい経験になりました。実際にプロの先生の授業を見て三つ感じたことがありました。

一つ目は、授業を進めるテンポが私の想像していたよりも速いなと感じました。初級のクラスだったので、説明や授業の進め方はゆっくりしているのかなと思いましたが、自然なスピードで説明を行い、無駄がなくスムーズに授業が進んでいるように感じました。課題を早く終えた学習者には、その課題をチェックし次のプリントを配っていたので、全員で一斉に答え合わせをするよりも時間を省け、課題を早く終えた学習者にも無駄な時間を与えないのでとてもいいなと思いました。

二つ目は、授業中の学習者の発言に対して「いいですね」「すばらしいですね」など、褒めの言葉が多かったことと、学習者の発言に反応してあげていたことです。褒めの言葉があることで、学習者も自信をもって発言をすることができ、自分の発言に対して教師が反応してくれると、より学習意欲が高まるのではないかと私は思いました。また、あまり積極的に発言をしない学習者でも、褒めの言葉や自分の発言に対する教師の反応があることで、発言しやすい環境になるのではないかと思います。褒めの言葉や学習者の発言に対する反応は大事にしていきたいなど、先生の授業を見学して感じました。

三つ目は、学習者の誤った発言や発音はしっかり訂正していることです。先学期に行った中国人留学生への授業で、学習者の誤りをどのように訂正していいのかわからずスルーしてしまうことがありました。ですが、先生は学習者の誤りにすぐに気づき、すぐに訂正していたのでそこも 1 つ勉強になりました。

授業見学をしたあとから、いよいよ実習に向けての準備が始まりました。一回目の授業の教案作成では、説明の仕方や学習者がまだ学習していない言葉や単語を調べること、時間配分などとても迷い悩みました。「一度教案を書き終えると、先生に添削してもらい、手直しをする」の繰り返しで、なかなかスムーズに進まず、とてもきつかったです。教材準備では、どの教材を使うか、どれくらいの大きさの文字で書くか、イラストがあった方がいいのか、など沢山の戸惑いがありました。教案作成を進める際に 1 番心がけたのは、「教

師の活動」「学習者の活動」「留意点」を一連の流れで書くことです。一連の流れで書くことでわかりやすく、見やすい教案になるのではないかと思ったからです。教案作成、教材準備、リハーサルを終え、ついに迎えた一回目の授業では、大きな声で堂々と話すことだけを目標に教壇に立ちました。授業を始めてみると「やらなければいけない！！」という気持ちになり、自分が思っていたよりも大きな声で堂々と授業ができた気がしました。しかし、授業を終えてみると、文字カードを使用する時の、文字カードを持つ位置が見えにくい位置だったこと、学習者とのアイコンタクトがあまりできていなかったこと、「オッケーです！」が口癖になっていること、会話文を読む際にもっと気持ちを込めて読むべきであることなど、沢山の問題点があることに気づきました。目標であった、大きな声で堂々と授業をすることはできましたが、まだまだ改善すべきところがあったので、少し悔しい気持ちがありました。

二回目の授業では、一回目授業の教案作成に比べるとスムーズに進めることができた気がしますが、指名する学習者の人数や、タイミングを決めるのに時間がかかりました。教材準備では、会話文を全て模造紙に書いたので、その作業がとても大変でキツかったです。実際の授業では、前回の授業の反省にあった「オッケーです！」を言わないことと、アイコンタクトを積極的にとること、会話文を正しいイントネーションで読むことを目標にしました。実際に授業では、一回目と同様に、大きな声で堂々とスタートすることができたと思います。教案作成の際に悩んだ「指名する学習者の人数」やタイミングは、授業の進み具合で上手く調整しながらできました。しかし、会話文を誤ったイントネーションで読んでしまったところがありました。また、会話文を書いた模造紙を貼ったりとったりする際の無駄な時間があったり、アイコンタクトをもっと取れたかなという反省点がありました。会話文のイントネーションは、CDに聞いて練習をしましたが、練習が足りなかったのかなと思いました。また、ただ練習するだけでなく、気持ちを入れて読むことや自分の間違いやすい部分を把握することがとても大事だと思いました。二回目の授業ではグループに分かれてフリートークをする時間がありましたが、授業とは違って話す内容が自由なので伝わらない言葉を使ってしまうたり、自分の言いたいことが学習者に上手く伝わらなかったりすることが多くありました。しかし、学習者が積極的に質問してきてくれたり、学習した日本語を積極的に使おうとする姿がとても嬉しくて、とても楽しい時間でした。二回目の授業は上手くできた部分もあれば、もっと練習が必要だと気づいたところもあったので三回目の授業に活かしたい！という前向きな気持ちで終えることができました。

三回目の授業では、三回目ということもあり少し余裕ができたのか、教案作成にとりかかるのが少し遅かったですが、一回目、二回目の時よりも、スムーズに教案作成を進めることができました。教材作成もどのくらいの文字の大ききで書くのか、どの教材が必要なのか、などが分かってきて、スムーズに行くことができました。授業では、あまり緊張することもなく「楽しみ」という気持ちが強くありました。授業を進める中で、学習とのアイコンタクトや、学習者の理解度を見て授業を進めること、学習者が理解出来ているかどうか

か把握することを意識できました。三回目の授業も、もっと違うやり方があったかな、もっとこうできたかなと思う部分はありましたが、授業を楽しみながらできている自分を知ることができたので、自分自身の大きな成長を実感できた授業でした。

今回、北九州 YMCA 日本語学校での実習をしてみて、授業前の準備では何を気をつけるべきなのか、何を準備すべきなのか、自分に足りないところは何なのか、自分の理想としている授業はどういう授業なのかなど、とても沢山のことを考え、学ぶことができました。私は人前に立つことや人前で話すことが苦手で、この実習を通して度胸をつけたいと思っていました。実習を終えてみて、学習者の前に立って授業をすると、やはり緊張すると思います。しかし、学習者が理解してくれたり、積極的に授業に参加してくれたりするのを体験して、どんどん授業をすることが楽しみになっていきました。このことを考えると、今回の実習で、自分自身とても成長することができたと思います。と同時に、「楽しみ」という気持ちが持てたのは、教案作成や教材準備などの授業前の準備を細かく丁寧にしたことも関係しているのではないかとも思っています。授業だけでなく、どんなことでも事前の準備を大切に入念にしていきたいと、実習を通して感じました。上手くできたことや上手くできなかったこと、どちらもありましたが、今回の実習は私にとってとても大きな経験でした。将来、日本語教師になるかはまだ決めていませんが、今回の実習を通して日本語教師になりたいという気持ちが少し強くなりました。もし日本語教師になるとしたら、明るく楽しい授業をできるような日本語教師になりたいと思っています。そして、今回の実習で学んだことや身についた力を、これからの生活で活かしていきたいと思っています。